

京都第一赤十字病院で上部消化管内視鏡検査または内視鏡治療  
を受けられた患者様・ご家族の皆様へ

S状結腸軸捻転症に対するロングフードを用いた内視鏡的捻転解除術の有用性と安全性

実施にあたり京都第一赤十字病院医学倫理審査委員会の審査を受け、研究機関の長より適切な研究であると承認されています。

今回、京都第一赤十字病院は、S状結腸軸捻転症に対するロングフードを用いた内視鏡的捻転解除術の有用性と安全性を実施いたします。そのため、過去に京都第一赤十字病院でS状結腸軸捻転症に対して内視鏡的捻転解除術を受けられた患者様の診療録を過去にさかのぼって調査させていただいたり、通常の診療として行われている診断や治療の過程で得られるデータを調査させていただきたいと考えています。

### 研究の目的

結腸軸捻転症、特にS状結腸軸捻転症は後腹膜に固定されておらず、可動性を有し、捻転が起こりやすいです。また、S状結腸過長や便秘などによる腸管拡張や緊張低下などの要因も重なることが多いため、高齢・脳血管障害・精神神経疾患・長期臥床・薬物長期使用(向精神薬、抗けいれん薬、大腸刺激薬など)がリスク因子になり、全身状態不良の患者に多いです。S状結腸軸捻転症の治療は内視鏡的捻転解除術が主軸で、解除成功率は78～93%とされるが、解除不能例では準緊急、腸管壊死が生じると緊急外科手術を要します。高齢化が進み、先に述べた全身状態不良の患者が今後さらなる増加が予想されるため、低侵襲な内視鏡的捻転解除術の成功率の向上が急務であります。内視鏡の先端に装着するフードは大腸の挿入において有用性が報告されていますが、S状結腸軸捻転症の解除成功率を検討した報告はなく、本研究では、先端にロングフードを装着することで、当院の既存法の臨床的特徴と解除成功率など有用性と安全性の比較検討を行うことを目的とします。

### 研究の方法

- ・研究期間：研究承認日から2026年（令和8年）3月31日
- ・対象となる患者様について

京都第一赤十字病院消化器内科で2013年4月1日～2023年3月1日に大腸カメラを施行したS状結腸軸捻転症の患者さんを本研究への参加をお願いしています。

- ・方法について

当院で保存されている過去のカルテ情報を参照して、下記の情報を取得させていただきます。取得する情報は、患者様の基本情報：年齢、性別、合併症、既往歴、現病歴、解除成功率、予後などとなります。

・資料の管理について

情報はすべて匿名化され、個人が特定されることはありません。また、研究発表が公表される場合でも個人が特定されることはありません。研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧は可能です。ご希望の方は下記の連絡先までご連絡ください。

・試料・情報の保存および二次利用について

本研究に用いられる情報（診療記録、各種文書類および電子的記録）は、論文等の発表が行われてから10年保管し、適切に廃棄します。本研究において取得した情報は、研究代表者佐藤秀樹の下、鍵のかかるロッカーに保管、責任をもって管理します。パソコンで管理する場合、ネットワークから遮断した状態で行います。

新たな研究を行う際にはあらためてその研究計画を医学倫理審査委員会で審査し承認を得ます。

研究組織

(実施責任者)	京都第一赤十字病院	消化器内科	佐藤秀樹
(実施担当者)	京都第一赤十字病院	消化器内科	奥山祐右
	京都第一赤十字病院	消化器内科	稲田裕
	京都第一赤十字病院	消化器内科	田中信
	京都第一赤十字病院	消化器内科	中野貴博

情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、令和8年3月31日までに下記連絡先までご連絡ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。なお上記までに申し出がなかった場合には、参加を了承していただいたものとさせていただきます。

本研究は、京都第一赤十字病院倫理審査委員会において、適切な研究であると承認されています。この研究計画についてご質問がある場合は下記までご連絡ください。

連絡先： 京都第一赤十字病院消化器内科  
医長 中野貴博 電話：075-561-1121(代表)

研究責任者： 京都第一赤十字病院消化器内科  
部長 佐藤秀樹